

持続可能な未来をつくるジェンダープラットフォーム
公開シンポジウム



NPO法人 エコ・リーグ

～つながれ、若者。未来をつくれ！！～



2015年10月
エコ・リーグ
北橋みどり

学生の環境活動概況

◆国内300超の環境サークルが活動

◆1990年台後半から数が増加、活動内容が変化



1994年 約10団体

反対運動・自然保護

エコ・リーグ設立
ノウハウ・アイデア
交換支援

2002年 約200団体

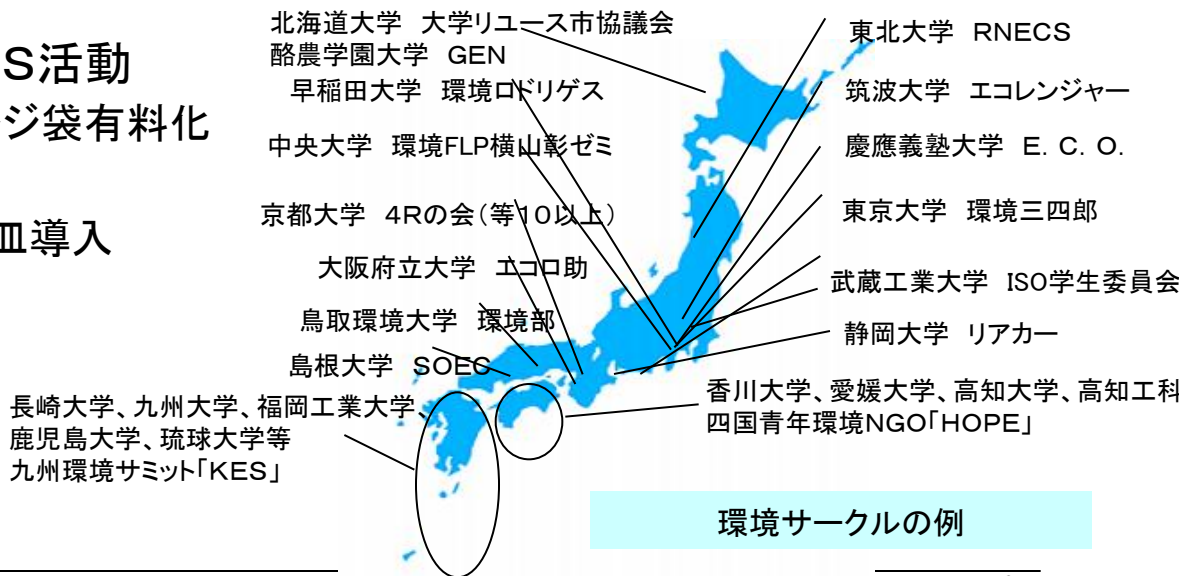
2007年 約300団体

キャンパスエコロジー・
環境×αへと変遷

(αは、教育、まちづくり、アート等)

◆多様な活動テーマ

- ・大学構内の環境負荷低減・EMS活動
 - ・省エネの呼びかけ、ごみ分別、レジ袋有料化
- ・エコ学園祭・エコ祭り
 - ・学園祭でのごみ分別指導、洗い皿導入
- ・環境教育
 - ・地域の小学校に出張授業
 - ・大学講義の企画・運営
- ・リサイクル市
 - ・卒業生の家具を新入生へ 等



エコ・リーグ事業内容①

ネットワークサポート

活動する300団体、3000人を繋げる。

◆ギャザリング

- ・活動する青年・団体のノウハウ・意見交換イベント
- ・全国各地で開催
- ・年に約10の新プロジェクト開始



◆大学生環境活動コンテスト

- ・大学生が日頃の環境活動を発表し、社会人による審査団が評価、アドバイス。



キャリアサポート

職業情報の提供と、環境マインドを持つ社会人を増やす

◆環境就職進路相談会

- ・100人のボランティアカウンセラー
- ・様々な分野をカバー(コンサル、エネルギー、マスコミ、公務員、NPO等)
- ・採用に直接結びつくものではなく、本音の意見が聞ける



エコ・リーグ事業内容②

マネジメントサポート

学生の能力を最大に

◆スキルアップトレーニング

- ・学生ならではの課題を解決
- ・トレーニング内容はミーティングの方法、運営、広報など

その他個別、サークル
お悩み相談会の開催等



メディア

- ・学生向け環境情報ポータルサイト
- ・活動ノウハウ・事例集の出版等
(過去10冊程度)
- ・環境団体一覧作成



インターナショナルサポート

世界で活躍する、国際環境活動家育成

◆UNEP-TUNZA北東アジア青年環境ネットワーク

- ・日・中・韓・モンゴルの青年ネットワークの日本窓口を務める
- ・国際会議の運営



◆アジアの青年との連携

- ・東アジアへの活動支援・連携

◆国際環境リーダーの育成

- ・国際Eco Leaderトレーニングの開催
- ・国際会議への青年派遣
- ・東アジア青年環境フォーラムの開催



エコ・リーグ事業内容③

気候変動: Campus Climate Challenge (CCC)

大学の温暖化対策を進めるために生まれたプロジェクト。「エコ大学ランキング」を発表し、全国の大学の温暖化対策の調査や、エコキャンパスツアーを開催。

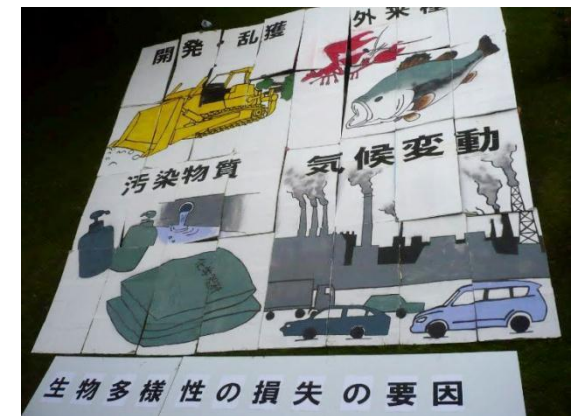


生物多様性 若者ネット

2010年に名古屋で開催されたCOP10にてユースの声を届ける活動を行った。

小型家電: Resources & 3R Revolution (RRR)

レアメタルを始めとする、資源の利用にまつわる様々な社会的問題に取り組むプロジェクト。小型家電の回収BOXを設置するなどの活動を行っている。



事務局運営体制

設立: 1994年

目的: 青年と団体のネットワーク・活性化

会員: 100名

年間イベント参加者: 1000人

組織: 事務局スタッフ全国各地に約50人
理事会(学生・社会人)

活動内容:

ネットワークサポート

キャリアサポート

マネジメントサポート

インターナショナルサポート

その他: メディア・出版等

特徴: ・最大の青年の全国ユース環境ネットワーク

・環境活動支援を目的(中間組織)

・青年(30歳以下)のみ運営権

・活発な若者のネットワーク

(スタッフ自身も多くは環境サークルのメンバー)

・企業・行政からの委託事業・共同事業を実施

例) 日本経済新聞社・環境省

予算規模: 約1000万円

(会費、イベント参加費、助成金、事業委託)



ユース団体の長所・短所

<長所>

- ・パワーがあり、きっかけがあれば大規模な活動が行なえる
- ・将来社会で環境リーダーとなるポテンシャルを有する(人材輩出)

<短所>

- ・大学を卒業と共に活動を終えるなど、継続性の維持が困難
- ・活動基盤が脆弱(事務所維持、スタッフ交通費の捻出)

ジェンダー・多様性に関する状況

<状況>

代表者・事務局長性別：男性・男性
役員の性別：11人中2名女性

- ・主体は学生・若手社会人で、女性の妊娠・出産に直面する前のスタッフがほとんど。
- ・理事会はキャビネット制（地域・年齢・ジェンダーバランスを取りながらグループで立候補）
- ・プロジェクトは「このゆびとまれ方式」（やりたい人が仲間を集め、責任をもって実行）

<良い点>



- ・国際プロジェクト、環境教育プログラムでは女性リーダーも多い。
- ・会議はスカイプ、作業はグーグルドキュメント、ドロップボックス等ITを使い在宅でも参加可能

<課題>



- ・スタッフの出身母体である環境サークルも男性リーダーが多い
- ・イベント講師も男性に偏りがち
- ・多世代との交流・連携は少ない